

## 2. 植林などによる保水、土砂流入防止機能の向上

### 提 言

流域の保水能力と土砂流入防止機能の向上のため、湿原周辺の遊休地や流域の荒廃地などへの植林を推進すべきである。

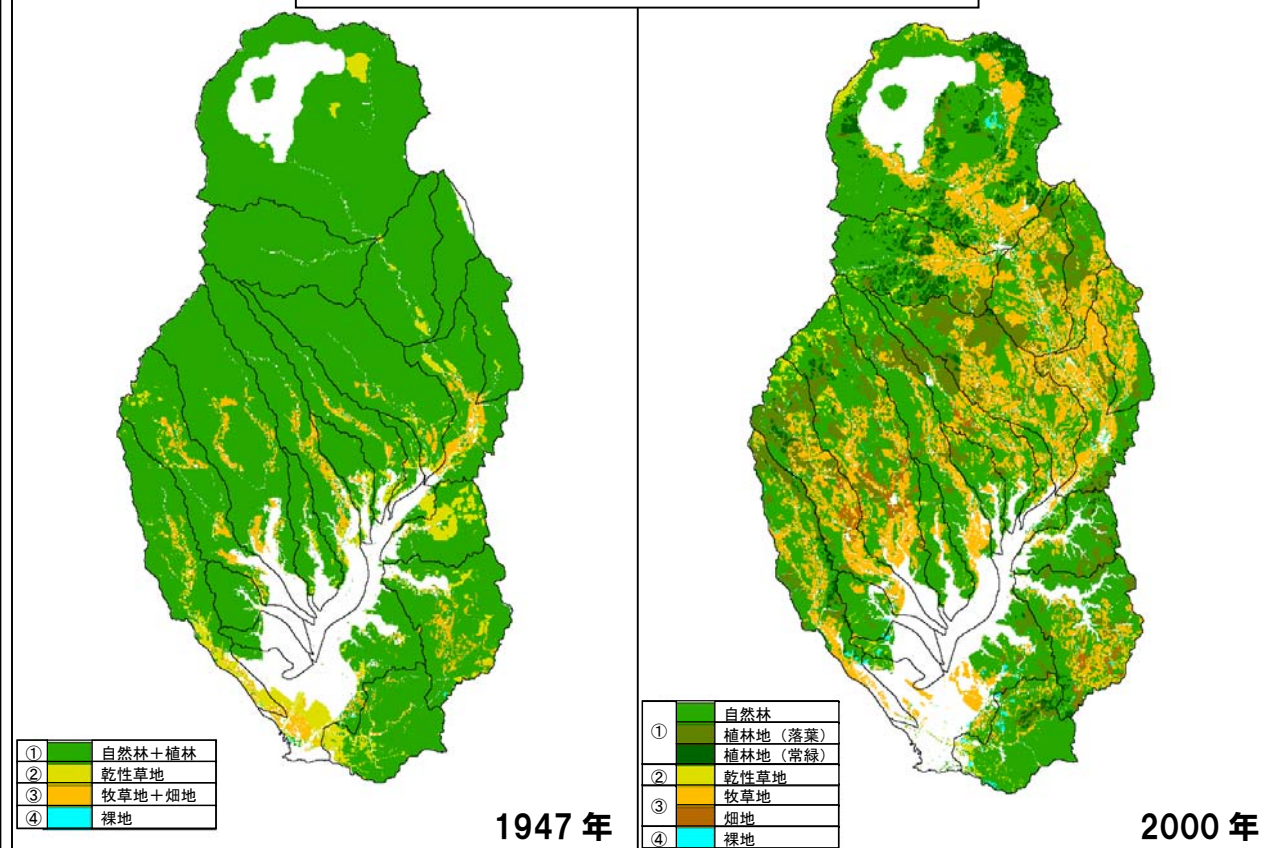
### 具体的施策

- ・ 裸地、荒廃地等への植林（粗粒土砂、細粒土砂）
- ・ 広葉樹を主体とした森林の再生

### これまでの調査、検討結果

#### ○ 植林による対策（第4回 土砂流入小委員会 資料）

##### 釧路川流域の植生、裸地分布状況とその変化

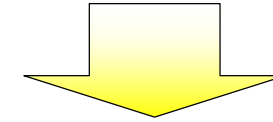


### これまでの調査、検討結果

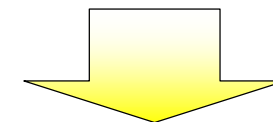
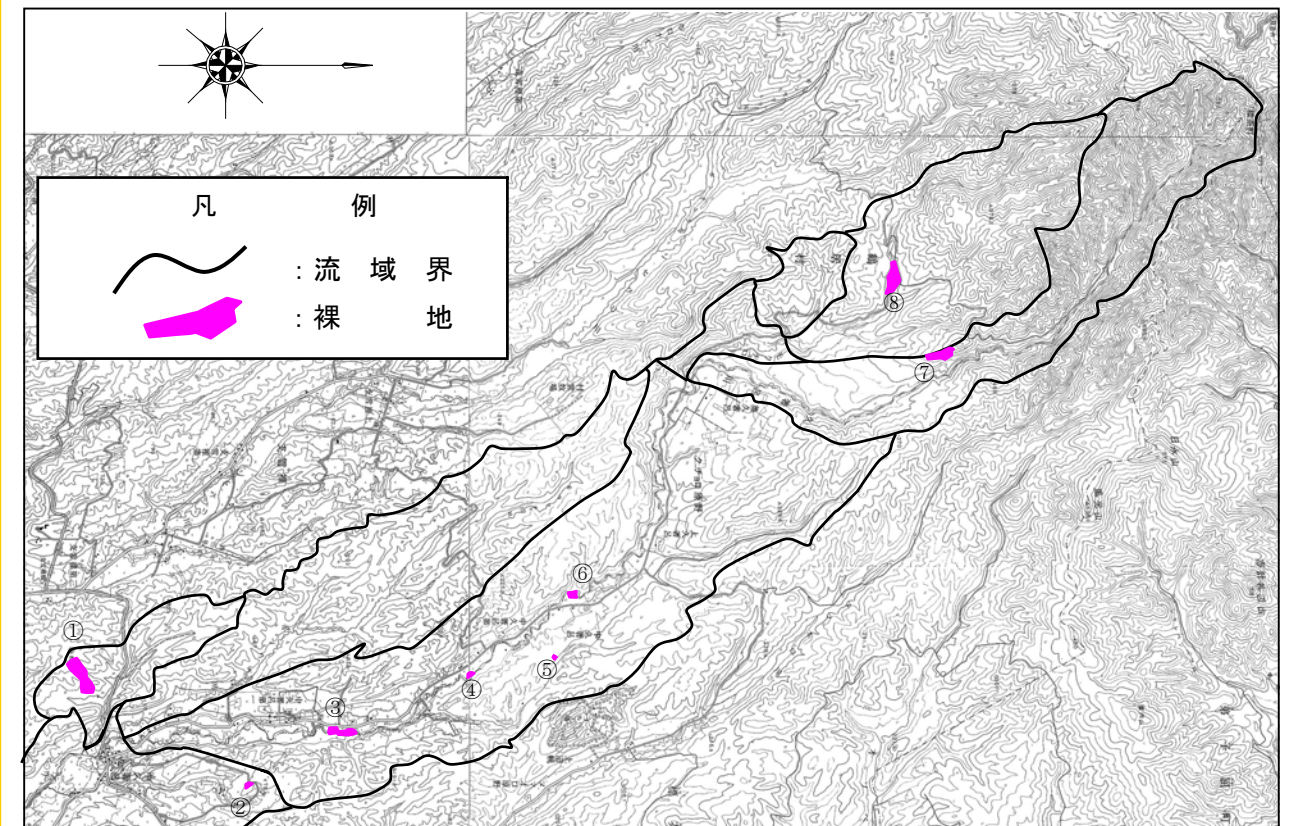
#### ○ 植林による対策（第4回 土砂流入小委員会 資料）

##### 検討概要

- ・ 久著呂川流域での空中写真、地形図による裸地の判読
- ・ 久著呂川流域で優先的に整備して効果を検証していく場所の選定



##### 裸地分布状況の確認



##### 結果

久著呂川流域で8箇所、合計 27.8ha の裸地を確認した。



○達古武地域における森林再生について(第5回実務会合資料)

1. 事業の目的

達古武沼及び周辺河川の集水域を対象として、現状では裸地、ササ地、植林地が目立つ丘陵地にミズナラなどの落葉広葉樹林を主体とした、この地域本来の豊かな森林を再生する。そのことによって、湖沼・湿原・湧水・河川などの水環境と周辺の森林が一体となった生態系の質を向上させ、生物の多様性と、保水力、土砂流出防止などの機能を総合的に高めていくことを目的としています。

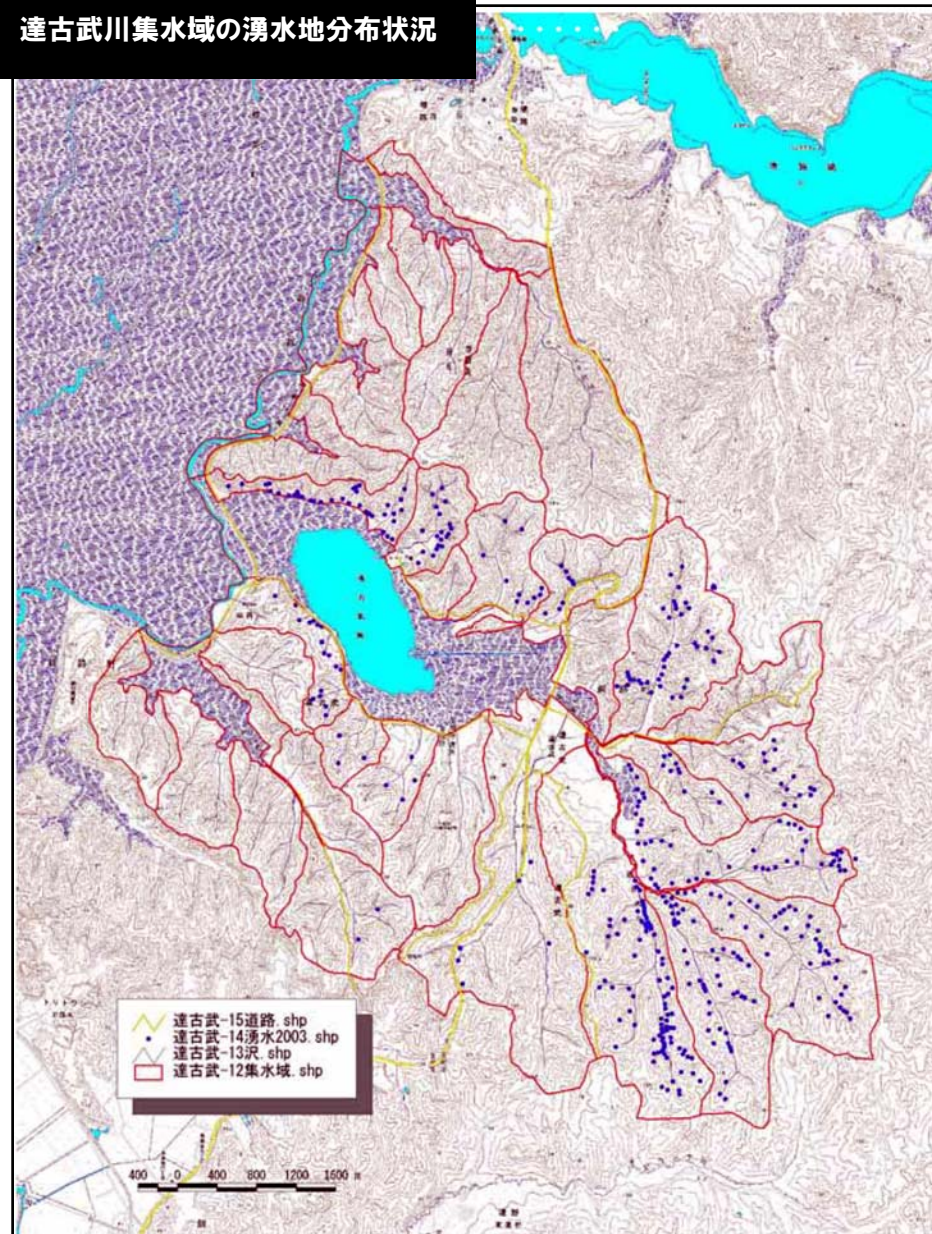
2. 協働事業

釧路湿原周辺でトラスト用地を取得しながら、自然保護活動を進めているNPO法人トラストサルン釧路とともに「森の再生」に取り組んでいます。

3. これまでの取り組み

- ・森林再生候補地の検討と保全すべき森林の検討
- ・生育阻害要因(シカ等の食害、風害、ササ繁茂など)の調査
- ・水環境調査(湧水地調査など)

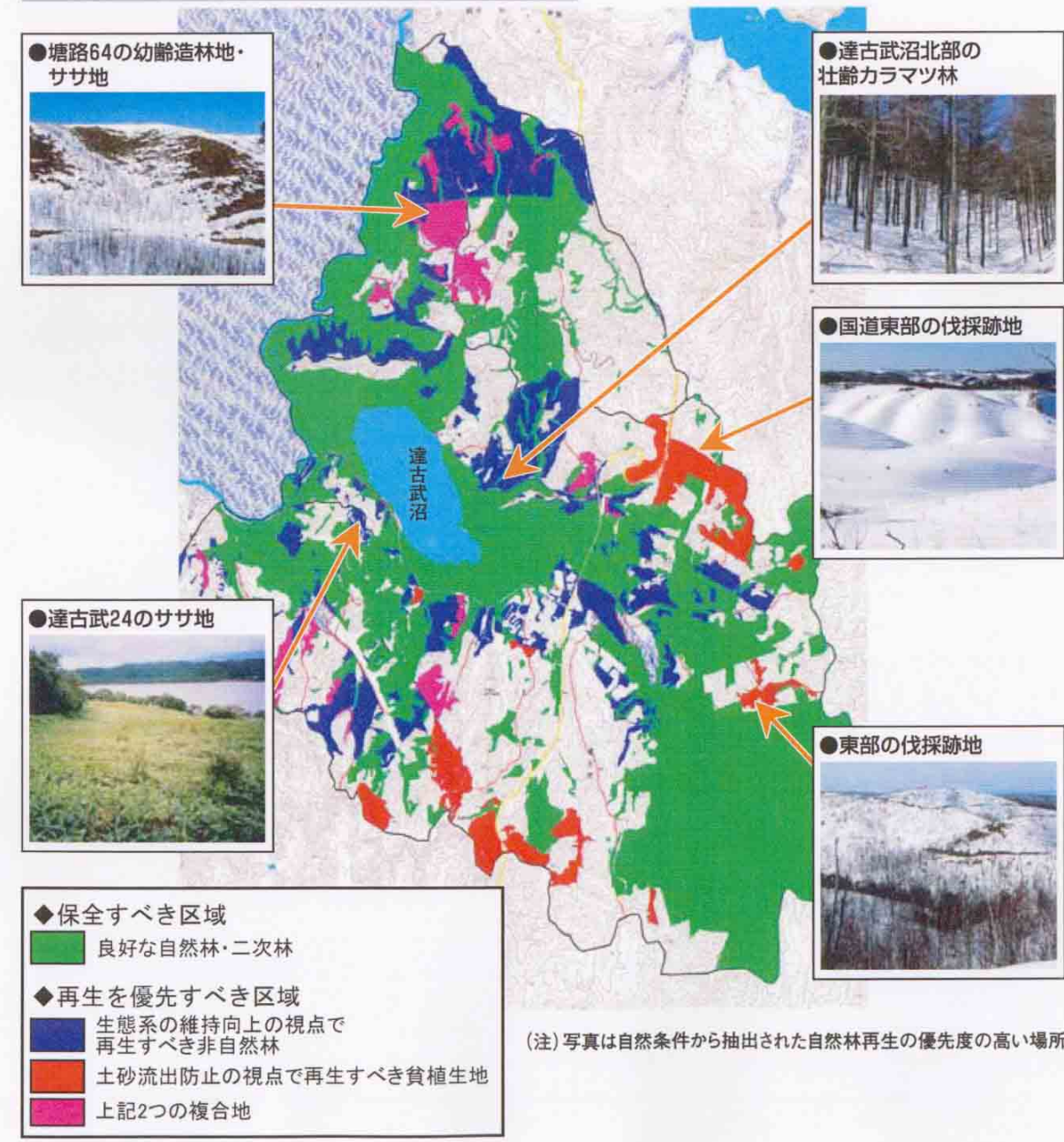
達古武川集水域の湧水地分布状況



達古武地域における森林再生  
ベースマップの作成と保全・再生優先度の検討

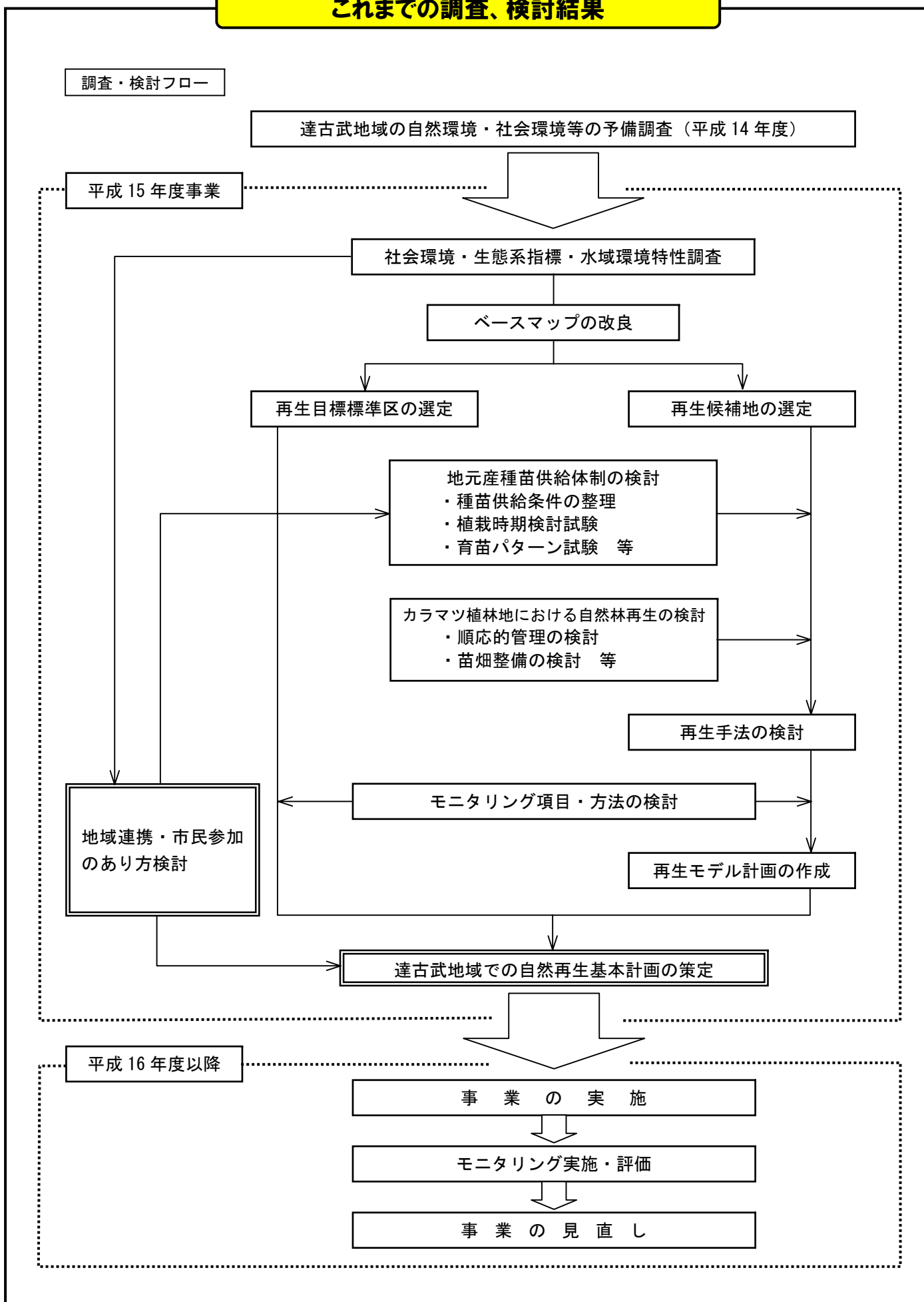
- 生態系の維持向上、土砂流出防止の視点で抽出した保全・再生優先対象地域をまとめて図示した。
- 平成15年度は、このデータに、他の知見や現地踏査結果を反映させて、抽出モデルを改善していくことで、よりよいマップを作成する。
  - ◆植生・森林データの修正
  - ◆抽出条件の修正・追加
- このマップは、自然条件をもとに作成したが、これに社会条件による実施可能性の面からの分析を加えていくことで、保全・再生の現実的プログラムを作成していく必要がある。各地区の地域社会における役割や歴史的背景をふまえてプログラムづくりを進めることになる。

達古武地域における保全・再生の優先対象地





これまでの調査、検討結果



これまでの調査、検討結果

○達古武地域自然再生基本計画作成(トラストサルン釧路との協働事業)

- (1)生態系指標調査とモニタリング方法の検討
  - ・自然再生の方向性、到達度を客観的に評価することができる効果的な指標となる動植物群の選定とその指標を用いたモニタリング手法の検討
- (2)森林再生手法の検討
  - ・自然再生候補地と再生の目標となる標準地(リファレンスサイト)の抽出
  - ・自然再生候補地の特性に応じた再生手法の検討
- (3)市民参加プログラムの作成と実践
  - ・各調査への市民参加プログラムの検討と実践
  - ・今後のプログラム展開方法の検討

○達古武地域地元産種苗供給システム整備(トラストサルン釧路との協働事業)

- (1)地元産種苗供給の検討
  - ・遺伝的攪乱防止のための地元産種苗の使用
  - ・地元産種苗を安定的に供給する仕組みの検討
  - ・育苗場所や植栽時期の違いによる活着率や成長量などの違いの把握
- (2)地域連携・市民参加の仕組みの構築
  - ・地域との連携・協働による苗の生産管理、植栽地の維持管理のあり方の検討

○達古武地区自然林再生

- (1)カラマツ植林地における自然林再生の検討
  - ・環境省が取得したカラマツ植林地を試験地とした、人工林からこの地域本来の自然林への転換手法の検討
- (2)順応的管理計画の検討
  - ・順応的管理により自然林再生技術の確立
  - ・そのために必要な試験内容等の検討

○雷別地区植樹

平成15年度実施(検討)内容

- 雷別地区植樹
- 達古武地区の森林再生基本計画作成